

# 2026 年度日本化学会賞候補者推薦方法について

公益社団法人 日本化学会

## 1. 賞の対象

賞の対象は、表彰規程および学会賞選考委員会規則により、次の通り定められている。

- (1) 学会賞は、本会会員であって、化学の基礎または応用に関する貴重な研究をなし、その業績が特に優秀な者に授与する。
- (2) 学会賞は、既に他の賞を受賞した者も授賞対象とする。なお、学術賞受賞者で、学術賞受賞後さらに顕著な業績をあげた場合には、その部分について学会賞の授賞対象とする。
- (3) 学会賞は、授賞対象となる分野で本会会誌 (Bull. Chem. Soc. Japan または Chem. Lett.) に以下のいずれかの発表実績のある者に授与する。
  - i) Accounts または Review を 1 報以上発表している者
  - ii) 主要な原著論文を 1 報以上発表している者

## 2. 提出書類 [返却しない] ※ (1) ~ (3) は別紙様式を使用

- (1) 支部長あて推薦書
- (2) 会長あて候補者推薦書
- (3) 候補者調書
  - ・研究歴 (職歴を含む)
  - ・業績内容の説明
  - ・業績リスト (論文、著書、総説、特許などのリスト)
  - ・その他
- (4) 学会賞受賞候補対象論文・総説のうち 5 報の別刷

## 3. 書類作成上の注意

- (1) 別紙「候補者調書の作成にあたって」参照。
- (2) 候補者が学術賞受賞者である場合は、学術賞での評価対象との区分について「業績内容の説明」及び「業績リスト」に明確に記すこと。

## 4. 推薦書の提出について

候補者が所属する支部事務局へ提出する。

締切日および提出方法は支部によって異なるので、支部事務局に確認すること。

## 5. 2026 年度選考委員会開催日

- |                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| (1) 第 1 次選考 [郵便等による書類審査] | 2026 年 9 月中旬         |
| (2) 第 2 次選考委員会           | 2026 年 10 月 16 日 (金) |
| (3) 第 3 次選考委員会 [最終選考]    | 2026 年 11 月 17 日 (火) |

## 6. 業績説明

選考委員会における業績説明は、原則として行わない。ただし、選考委員会の判断により、候補者本人からヒアリングを行うことがある。なお、ヒアリングのための旅費、交通費については、本会は負担しない。

## 7. 受賞者の発表および表彰

- (1) 受賞者の発表

本会ホームページにて受賞者および受賞題目を発表する。

その他、「化学と工業」3月号で関連記事を発表する。

## (2) 表彰

翌年3月の春季年会会期中の表彰式にて表彰を行う。

## 8. 受賞後にお願いしたいこと

- ・本会会誌への投稿義務

学会賞受賞者は、受賞した業績を本会会誌(Bull. Chem. Soc. Japan または Chem. Lett.) の Accounts または Review に投稿しなければならない。ただし、1.(3)の発表実績として本会会誌に Accounts または Review を1報以上発表している者に関しては投稿を強く推奨する。

- ・その他、本会英語版ホームページに受賞内容を掲載するため、英文業績説明の作成と、春季年会会期中に受賞講演等を依頼する。

## \*2026年度日本化学会各支部長(敬称略)

- ・北海道支部長 居城 邦治
- ・東北支部長 壹岐 伸彦
- ・関東支部長 稲木 信介
- ・東海支部長 宮本 啓一
- ・近畿支部長 山田 容子
- ・中国四国支部長 安倍 学
- ・九州支部長 速水 真也

☆本会では、候補者推薦書の内容及び委員会での審議内容に関し、秘密を保持します。  
なお、受賞者は受賞が決定するまで公表を控えていただけますようお願いいたします。

以 上

# 日本化学会賞

## 候補者調書の作成にあたって

1. 別紙様式を使用。作成の場合は A4 判、余白は左右約 2.5 cm のこと。
2. フォントサイズはタイトルを除いて 10~12 ポイント、1 ページの行数は 40 字×40 行程度の横書きとすること。
3. 年号は全て西暦で統一すること。
4. 支部事務局へ提出の際には「支部長あて推薦書」を添付すること。  
ページ番号は「会長あて候補者推薦書」を 1 ページ目とし、以下「研究歴（職歴を含む）」「業績内容の説明」「業績リスト」「その他」の順に中央下部に記入すること。
5. 「会長あて候補者推薦書」の推薦支部、支部長の欄は、推薦書作成者（または候補者）が記入すること。 \*本年度の各支部長名は前頁に記載。
6. 候補者氏名、勤務先と職名欄は日本語と英語を記載すること。  
(記入例)

候補者氏名	(ふりがな) かがく たろう	会員番号	
	(日本語) 化学 太郎 (英語) Taro Kagaku	生年月日	西暦 年 月 日
勤務先と職名	(日本語) 東京大学大学院理学系研究科化学専攻：教授 (英語) Department of Chemistry, Graduate School of Science, The University of Tokyo : Professor		

7. 「業績内容の説明」では、候補者の業績内容を反応式、構造式、図・表を含めて具体的かつ簡潔に、用紙 5 枚以内 (6,000 字程度) にまとめる。
  - ・ 候補者が学術賞受賞者である場合は、学術賞受賞後の顕著な業績の部分について記載し、学術賞での評価対象との区分について明確に記すこと。
  - ・ 引用文献がある場合は本文に含めて 5 枚以内とする。
8. 「業績リスト」では、項目別 (1.主要な原著論文 10 報以内 2.全原著論文 3.著書 4.総説 (Accounts、Review ほか)・特許・その他 5.国際会議での基調・招待講演) に記載する。
  - ・ 候補者が学術賞受賞者である場合は、①学術賞に関係する研究成果に関する全論文リスト (学術賞での評価対象論文 20 報に◆印を付記)、②日本化学会賞の審査対象となる研究成果に対応する全論文リスト、に分けて記載すること。
  - ・ 授賞対象となる分野で本会会誌 (Bull. Chem. Soc. Japan または Chem. Lett.) への発表実績となる論文に★印、提出論文には○印を付記すること。
  - ・ 印刷中(in press)の査読論文 (審査のある論文) は、DOI を記載するか、採用決定通知コピーを提出することで、論文・報文リストに加えることができる。投稿中 (submitted) の論文は記載できない。
  - ・ 共著論文に関しては、候補者が総括研究者または研究担当者である場合は〔主〕を、研究協力者である場合は〔協〕をその論文の末尾に付ける。  
〔例〕 (35) Molecular-Sieve Type Sorption on Alkali Graphites, M.Wada, S.Suzuki, T.Tanaka, Bull.Chem.Soc.Jpn., 43, 2656 (1983) [協]
  - ・ 特許については、実用化実績があれば記載すること。
9. 申請の段階で未確定な要素は、候補者調書に記載しないでください。  
例)まだ出席していない会議での基調・招待講演、内定の段階でまだ公表されていない受賞等

# 推 薦 書

年 月 日

日本化学会  
支 部 長 殿

支 部

学 会 賞  
学 術 賞  
下記の者を 進 歩 賞 受賞候補者として推薦します。  
女性化学者奨励賞 (該当を○で囲んで下さい。)  
化学教育賞  
化学教育有功賞

候補者氏名 (勤務先)	( )
----------------	-----

推薦者氏名 (勤務先)	( )
----------------	-----

※候補者、推薦者は同一の支部所属で別人であること (自薦は認めません)

推薦者連絡先	(所在地) 〒  Tel.  FAX.  E-mail
--------	---

注) 推薦書は毎年更新していますので、2026年度のものを使用してください。

整理  
番号

## 2026年度 学会賞候補者推薦書

年 月 日

日本化学会会長 殿

\_\_\_\_\_ 支部

支部長 \_\_\_\_\_

下記の者を学会賞候補者として推薦します。

候補者氏名	(ふりがな) (日本語) (英語)	会員番号	
		生年月日	西暦 年 月 日
勤務先と職名	(日本語) (英語)		
勤務先所在地	〒 Tel. _____ E-mail _____		
最終学歴		学位	
連絡先	勤務先 ・ 自宅 (どちらかに○印。自宅の場合のみ下記に記入)		
現住所 (自宅)	〒 Tel. _____ E-mail _____		
研究題目	(和文)		
	(英文)		
過去における 受賞歴	※受賞年(西暦), 賞名,受賞題目の順		

(注) 以下、年号は全て西暦で統一して下さい。

## 研究歴 (職歴を含む)

用紙が不足の場合は適宜足して下さい。

## 業績内容の説明

研究業績の概要。業績内容を反応式、構造式、図・表を含めて具体的かつ簡潔に用紙5枚以内(6,000字程度)にまとめて下さい。

※学術賞を受賞している場合は、学術賞受賞後の顕著な業績の部分について記載し、学術賞での評価対象との区分について明確に記すこと。

※引用文献がある場合は本文に含めて5枚以内とする。

用紙が不足の場合は適宜足して下さい。

# 業績リスト

以下の項目別に記入すること。被引用回数は評価対象外のため、付記しないで下さい。

1. 主要な原著論文 10 報以内 (学術賞受賞対象の論文は入れないで下さい。)
2. 全原著論文
3. 著書
4. 総説 (Accounts、Review ほか)・特許・その他
5. 国際会議での基調・招待講演

注1：学術賞を受賞している場合は、①学術賞に関する研究成果に関する全論文リスト (学術賞での評価対象論文 20 報に◆印を付記)、②日本化学会賞の審査対象となる研究成果に対応する全論文リスト、に分けて記載すること。

注2：本学会誌 (Bull. Chem. Soc. Japan または Chem. Lett.) への発表実績となる論文に★印、提出論文には○印を付記すること。

注3：共著論文に関しては、候補者が総括研究者、または研究担当者である場合は〔主〕を、研究協力者である場合は〔協〕をその論文の末尾に付ける。

**本学会誌 (Bull. Chem. Soc. Japan または Chem. Lett.) への発表実績にチェック✓をいれて下さい。**

- 主要な原著論文 10 報に含まれる
- Accounts または Review

学術賞を受賞している場合、受賞業績を本学会誌の Accounts または Review に投稿しましたか。

- 投稿している

〔題目〕

- 投稿していない、または投稿準備中

用紙が不足の場合は適宜足して下さい。被引用回数は評価対象外のため、付記しないで下さい。

1. 主要な原著論文 10 報以内 (学術賞受賞対象の論文は入れないで下さい。)

2. 全原著論文

学術賞を受賞している場合は、学術賞での評価対象と明確に区分すること。

- ①学術賞に関する研究成果に関する全論文リスト (学術賞での評価対象論文 20 報に◆印を付記)
- ②日本化学会賞の審査対象となる研究成果に対応する全論文リスト

3. 著書

4. 総説 (Accounts、Review ほか)・特許・その他

5. 国際会議での基調・招待講演

## その他

学会賞にふさわしい業績と思われるその他の資料を自由形式で添付してください。申請の段階で未確定な要素は記載しないでください。

用紙が不足の場合は適宜足して下さい。